

【事例①-基本情報】

介護度		要介護 1 ⇒（転倒後）区分変更し要介		年齢	95才	性別	女性
家族状況	家族構成	夫：死別、娘二人				関係	良好
	状況	独居。市外に住む娘が交代で訪問。					
	定期巡回への 理解・意向	本人	毎日誰かが来てくれるのは安心。				
		家族	退院後しばらくは泊まりこむが同居は難しいので、24時間対応してもらえるのは助かる。				
疾病	変形性膝関節症						
	服薬	ユベラNカプセル100mg、セレコキシブ100mg、カムシア配合錠、メインテート5mg、L-アスパラギン酸Ca200mg、レバミピド100mg、酸化マグネシウム					
ADL	退院時（5月13日）：動作緩慢だが、概ねADL自立。 転倒後（8月5日）：数日はベッド臥床、ベッドサイドに設置したPトイレには全介助⇒自立。歩行は手引き要。						
依頼経緯	退院後ADL自立だが家族の不安から老健入所を考えていた。新型コロナの影響で、すぐの入所は対応できないとなり、自宅に戻ることになる。ご本人に出来ていることも多く、出来ること出来ないことを把握しどれだけの支援が必要かを見極めることと、介護度が低いので毎日のヘルパーは利用できないこともあり、定期巡回に依頼したいと担当CMより依頼が入る。						
開始時のプラン	一体型 ・ 連携型 ※○をお願いします						
	課題	本人が以前できていた生活に戻すことができるよう、見守りや声掛けを行いながらの支援が必要。また、入院前と室内の環境も変わったことや、短期記憶障害もあるため、確認や声掛けが必要。					
	定期巡回での支援の方針	自宅での生活にまず慣れていくために支援していく。また家族も退院後しばらくは交代しながら見守りしているため家族の負担も確認しながら提案、助言が必要。					
	開始時の状況	5月13日～ 利用開始 自宅での導線確認、トイレや入浴時の住環境確認し安全に過ごせるよう提案行い整える。 しばらくは1日2回ヘルパー訪問、夕方は配食をとり1日3回の安否確認を行う。 ご本人は不安もない、家に帰りほっとしている。腕～肩の痛みは入院前に比べると良くなっているが、服の着脱には時間かかるが、それでもできている。また古い住居であるが、重い雨戸の開け閉めも「以前していたから」自身で行い、また玄関ポストまでの新聞取りも「気になるから」と自身でされる。					
※別シートにスケジュールの記入もお願いいたします。							